

2023年7月16日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ6 「仲保者キリスト」

イザヤ53：11～12、ヘブライ2：14～18

前回読みました問15に「仲保者」という言葉が出てきました。

問15 それでは、わたしたちはどのような仲保者また救い主を求めるべきなのですか。

答 まことの、ただしい人間であると同時に、あらゆる被造物にまさって力ある方、すなわち、まことの神でもあられるお方です。

仲保者とは、間に立つ「仲立ち」ですが、それはまことの正しい人間であること、まことの神さまであること、この二つを兼ね備えていなければならないと言います。それは聖書の伝える救いが神さまと人間との関係を問題にしているからです。神さまと人間との間をとりもつ、関係を修復すること。それをさらに問16以降では詳しく教えています。

問16 なぜその方は、まことのただしい人間でなければならないのですか。

答 なぜなら、神の義は、罪を犯した人間自身がその罪を償うことを求めています。自ら罪人であるような人が、他の人の償いをするなどできないからです。

その仲保者は、まずまことの正しい人間だと言います。何よりも罪は人間の問題ですからその償いは人間自身が負わなければなりません。他の何ものでもない、人間にその返済義務があります。けれども人間は日ごとに罪を重ね、その負債を増し加えています。ですから罪人であるわたしたちがその負債を償うことはできません（問13）。だからこそ「正しい人間」でなければならないのです。それが仲保者の条件として求められています。

もう一つ、仲保者はまことの神さまでもなければなりません。

問17 なぜその方は、同時にまことの神でなければならないのですか。

答 その方が御自分の神性の力によって神の怒りの重荷をその人間性において耐え忍び、わたしたちのために義と命とを獲得しそれらを再びわたしたちに与えてくださるためです。

ただまことの人間としてその義務を負うだけでは救いにはなりません。その負債の重荷に耐え、これを完全に払いきる力を持っていなければならない。その力を持っておられるのはまことの神さまでです。神さまでが人間を罪から救う力を持っておられます。仲保者とは、まことの人間として神さまに対する負債を償う義務を担い、同時にまことの神さまでとしてこの負債を返済する能力を持つということです。

では、そのように二つの条件を兼ね備えたまことの正しい人間であり、同時にまことの神さまである方とは一体どなたなのか。その答えが問18です。

問18 それでは、まことの神であると同時に、まことのただしい人間でもある、その仲保者とはいったいどなたですか。

答 わたしたちの主イエス・キリストです。この方は、完全な贖いと義のために、わたしたちに与えられているお方なのです。

キリストが「まことの神さまであり、まことの人である」という信仰がキリスト教の教えの核になりました。そのことはこの信仰問答が初めて述べている訳ではありません。キリスト教の教理が形成されていく初期の段階ですでに現れました。教会の信仰告白の基本となるものがあります。例えば、使徒信条はその基本信条の一つですが、他にもニカイア信条、カルケドン信条などがあります。これはいずれもイエス・キリストがまことの神さまであり、まことの人であることを告白するものです。けれどもその土台にあるのは他でもない聖書なのです。

ヘブライ人への手紙に「ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました」（2：14）とあります。まことの神さまである主イエスがわたしたちと同じまことの人間となられ、血と肉を備えてくださったと言います。それはどうしてでしょう。「それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした」（2：14～15）とあります。この「解放なさる」と訳された言葉はアパラッソー、逃れさせる、手を引いて連れ出すという意味があります。連れ出すためには、そこに入らないといけません。救助隊員は危険を顧みず、火の中に飛び込んでいきます。死に支配された人間をそこから連れ出すために、神さま自らこの罪と死の世界に飛び込んで来られました。神さまはあえてこの罪の世界に入られて、罪と死の隷属状態にあるわたしたちの手を引いてそこから連れ出してくださいます。

そのためにまことの神さまがまことの人間として血と肉を備えるという驚くべき出来事が起こりました。これをキリスト教の教理の言葉で「受肉」と言います。まことの神さまが「民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかった」（2：17）のです。そしてさらにヘブライ人への手紙では「事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおできになるのです」（2：18）と告げています。この「試練」が何を意味しているのかはお分かりでしょう。十字架です。主イエスはその命を十字架によってわたしたちの罪の償いを果たしていただきました。神さま自らが苦しまれて、試練をお受けになられて、わたしたちの代わりに罪を完全に償っていただきました。それでわたしたちは返済を免れたのです。

このことは何によって知ることができるのでしょうか。

問19 あなたはそのことを何によって知るのですか。

答 聖なる福音によってです。それを神は自ら、まず樂園で啓示し、その後、聖なる族長たちや預言者たちを通して宣べ伝え、律法による犠牲や他の儀式によってかたどり、御自身の愛する御子によってついに成就なさいました。

聖書全体、旧約から新約に至るまで、全66巻の聖書がイエス・キリストの罪の贖い、そして神さまとの和解を告げています。聖書からこのキリストの救い、福音を聴き取ることが、聖書を正しく読む秘訣です。今日はイザヤ書を読みましたが、そこにはこう記されています。「わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために、彼らの罪を自ら負った」（53：11）この「僕」こそイエス・キリストを明確に指し示しています。わたしたちを御前に正しい者としてくださるために、わたしたちの罪を自ら負ってくださった。その命を差し出して負債を支払ってくださった。そこに聖書の示す救いの本質があります。

天の父よ。あなたはわたしたちを罪と死の支配から連れ出すために、尊い独り子イエス・キリストを与えていただきました。神さま自らこの試練を負ってくださいます。そこに聖書の示す福音、まことの救いがあることを信じさせてください。主の御名によって祈ります。アーメン。